

## ライフサポート ひなた（通所）

症例概要 利用者：90代・女性・要介護3

既往歴： 左恥座骨骨折、右橈骨遠位端骨折

経過： 2018年4月中旬散歩中に車との接触事故により転倒し受傷、入院。右橈骨遠位端骨折に観血的整復固定術を施行し同年7月に独居での自宅退院となった。ADLに著名な制限はないものの、下肢筋力強化目的の為、同年7月よりライフサポートひなたの通所リハ利用開始。再び一人で外出ができることを目指して、歩行練習をしていた。当初は送迎車で送迎であったが、歩行能力向上に伴い、目標の第一歩として、通所リハ利用時にひなたまでの50mを歩いて通うことを2021年8月にはできるようになった。

### 内 容

初めはリハビリでの歩行練習中に、転倒に対する恐怖心を訴える事もありましたが、リハビリや、自主トレの受入れは良く、穏やかに会話をされることが増えてきました。しかし、マシーントレーニングや、脳トレのプリントを積極的に行うことは無く、お誘いをしなければ、テレビを見ていることが多くなってきたこともあり、何か目標をたてて取り組むことを提案しました。ふだんの会話はスムーズであるが、理解度の低下が見られることもあり、リハビリ会議にて、運動機能も維持しながら、独居生活を続けていく為にとケアマネ含め検討したことが、自己送迎をやってみてはどうかというリハビリ担当からの発案でした。自宅は当施設まで約50mという近くに位置していることと、交通量も多くなく、信号もありません。歩行器を使って歩く距離には問題はありませんでした。

まずは自宅玄関での問題を解決することから始めました。玄関先には段差があり、歩行器を持ち上げることが不可欠な為、軽量の歩行器へ変更し、玄関を出たところでの方向転換などの動作を繰り返し練習しました。

しかし、今までお迎え前に電話をしていたことがなくなり、家を出る時間がわからないと言われ、ご本人へ「9時に家を出て下さい」と伝えるが、その時は理解をしていただけても、自己送迎を始める迄に繰り返し「何時に出るんだっけ?」と聞かれることがありました。そこで、ご自宅のリビングと、玄関に[通所リハビリは火木土・9時に家を出る]という貼り紙をしました。長男様は同居ではありませんので、毎朝お母様に決まった時間に電話をかけて頂き、9時に家を出るように言って頂けることになり、自己送迎は開始することになりました。

悪天候の時はお迎えに行きますという決まりがありましたが、ご自身で判断することが難しく、当施設へ電話をして頂き、歩いて行くのか、車が迎えに来るのかを確認して頂くことになりました。しかし、電話

をかける行為もいつかけたら良いのかわからず、お迎えに行く時は、当施設から電話をしてはどうかと提案をしたところ、長男様より、電話をかける行為はできるようになって欲しいとの希望があり、雨でも晴れでも決まった時間に電話をかけてきて頂き、歩いて来るのか、車でお迎えに行くのかをお伝えすることが始まりました。

自己送迎は今でも続いており、電話も忘れずかけて下さるようになりました。時々二度寝をしたり、出る時間を勘違いして、早くに到着してしまうことはありますが、「こんな近くに通える施設があつて本当に良かったわ」とご利用を楽しんで下さっています。今では、帰りに少し坂道がある道のりを、なるべく坂道が急では無い側の道をご自分で選び、「転んじゃうと大変だからね」と言って帰って行かれるのを見送ることが日課となっています。